

一般社団法人日本地域看護学会
2021年度第3回理事会議事録

- I. 日 時 2021年10月31日(日) 10:00 ~12:00
- II. 会議形態 Zoomによるオンライン会議
配信元:株式会社ワールドプランニング会議室(東京都新宿区神楽坂4-1-1)
- III. 出席者 理事長 宮崎美砂子
副理事長 荒木田美香子, 田高 悦子
理 事 秋山 正子, 石橋みゆき, 石丸 美奈, 大木 幸子*, 大森 純子,
蔭山 正子, 岸 恵美子, 北山三津子, 小西かおる, 田村須賀子,
永田 智子, 春山 早苗
監 事 佐伯 和子, 村嶋 幸代
事務局 筒井 愛, 野田 智己 (*印は欠席者)

IV. 議 事

宮崎理事長より、理事の過半数が出席していることから、定款第38条に則り、本理事会の成立が宣言された。

審議事項

1. 前回理事会議事録について(宮崎理事長)資料1-1
2021年度第2回理事会議事録案の内容を確認し、これを承認した。
2. 入退会申請者について(石丸理事)資料2、別紙資料
入会申請者13人、退会申請者6人について、資料を基に確認し、これを承認した。なお、入会申請者のうち推薦人がいない3人については宮崎理事長を推薦人とする旨、退会申請者のうち年会費に未納がある者は納付をもって退会を認める旨を確認した。
3. 第26回学術集会の開催方法について(荒木田理事)資料3
第26回学術集会について、資料を基に確認し、2023年8月26日(土)~27日(日)の会期で、川崎駅周辺の会場を候補とすることについて承認した。開催方法は、対面とWebのハイブリッド方式を視野に入れ、今後、予算面、会場の収容人数、申込方法等を考慮し検討することとした。
4. 日本地域看護学会臨時理事会における審議内規(案)について(石丸理事)資料4
メール審議の位置付けを明確にすることを目的として、作成された内規案を基に検討した。名称について、「臨時理事会」と表記した場合、対面での臨時理事会も含まれ混同が生じるため、「書面およびメールにおける審議内規(案)」と変更し、これを承認した。今後、書面およびメールによる審議を行う際には、決議には理事全員の承諾が必要であること(通常の理事会では出席理事の過半数で決議可)、また、緊急性を要する内容であること、役員全員が確認すべき場合に限ること限定して行うことを、改めて確認した。
5. 日本地域看護学会誌投稿規程改定(案)について(永田・蔭山理事)資料5
英文論文において日本語の文献を引用する際の記載方法について、資料を基に投稿規程改定(案)を確認し、これを承認した。規程は10月31日付で改定し、学会HPに公開することとした。また、英語版の投稿規程の整備や、国際誌としての位置づけに関する意見が出され、今後検討することとした。

報告事項

1. 第24回学術集会について(岸理事)資料6

第24回学術集会について、8月27日～9月26日：オンデマンド配信、9月11～12日：ライブ配信にて開催されたことを報告した。参加者は659人(前期登録:会員253人/非会員146人、後期登録:会員81人/非会員152人、学生:27人)であり、一般演題79題、ワークショップ9題、後援8団体、協賛8社の申し込みがあった。

会期中のHPへのアクセス数は98,825件であり、そのうちライブ配信時のアクセス数は、9月11日15,922件、9月12日10,001件であった。動画再生数は、オンデマンド配信4,600回、ライブ配信656回であった。なお、メールマガジンでの広報時にアクセス数が高くなっていた旨を併せて報告した。

アンケートは37件の回答があり、資料を基に報告した。参加者数と比較して演題が少なかったことや非会員の割合が高かったことから、今後、相関関係を確認することとした。また、Web開催のメリットとデメリットを今後活かすことや、非会員の参加者を入会に繋げられるよう検討することとした。

その他、会計については、収入9,428,511円、支出9,063,065円で、365,446円が学会本体への戻し金となる見込みである旨を報告した。委託先などへの支払いを行い、会計監査を行うこととした。

2. 第25回学術集会について(田村理事)資料7

第25回学術集会の進捗状況について、資料を基に報告した。開催方法について、メインプログラム、市民公開シンポジウム、ワークショップは現地会場にて実施、一般演題はオンデマンド配信によるオンライン発表とし、一定期間(2週間)の視聴期間を設けることとした。

プログラムについて、特別講演「地域看護への期待：看護職の自立のために」のサブタイトルが、看護職は自立していないかのような印象を与える可能性があることから、講師の上野千鶴子氏に変更を依頼することとした。また、理事会セミナーについては、次回の理事会にて検討することとした。

3. 会員数について(石丸理事)資料8

10月22日時点での会員数は、1,427人である旨を報告した。

4. 委員会報告について

1) 編集委員会(永田理事)

10月2日に第2回委員会をWebにて開催した旨を報告した。今回受領した投稿論文が9編であり、投稿数の減少が続いていることから、周囲の会員へ投稿を呼び掛けてもらうよう理事に依頼した。

2) 研究活動推進委員会(大森理事)

第1回セミナーの開催について、「地域看護に活かせるGISを用いた研究の理論と実際；脆弱地域を今すぐ可視化！地域の強み弱みを実践に活かす」をテーマに、2022年3月6～21日：オンデマンド配信/3月5日13:00～15:30：ライブ配信(質疑応答を含む)を予定している旨を報告した。参加人数を200名と想定し、参加費は、会員：2,000円/非会員：4,000円/学生：1,000円とすることとした。

3) 広報委員会(田村理事)資料9

10月18日に第1回委員会をWebにて開催し、昨年同様、広報のための質問紙アンケートハガキを作成し、学術集会案内、学会HPのQRコードが記載された入会案内書とともに、地域包括支援センター約1,000か所へ郵送予定である旨を報告した。

また、魅力ある学会づくりを目指し、広報活動を行っていく旨も併せて報告した。

4) 教育委員会(岸理事)当日資料

9月24日に第1回委員会をWebにて開催し、活動計画の検討や意見交換を行った旨を報告した。また、3月に委員会でまとめた「地域看護学の教育内容と方法の報告書」について、今後、図式化を行うことや、委員会にゲストスピーカーを迎えて評価を受けることで、バージョンアップする方針であることも併せて報告した。

5) 国際交流推進委員会(小西理事)資料10

10月15日に第1回委員会をWebにて開催し、学会誌第25巻第1号に掲載予定である英文ニュースレターNo.21の内容を検討した旨を報告した。

また、2022年6月21～22日にスウェーデンにて開催される国際地域看護学会（ICCHNR）の演題募集が始まることから、会員への周知のためにメルマガ配信を予定していることも併せて報告した。

6) 表彰論文選考委員会（北山理事）

表彰論文選考に向けて、昨年度は投票率が低かったことから、今年度は投票期間を長く取り、12月中に代議員へ選考依頼を行う予定であることを報告した。

7) 災害支援のあり方検討委員会（春山理事）

「保健師教育における健康危機管理の教育方法」についてアンケート調査を行い、43名の回答があったこと、また、それらの内容について第24回学術集会内のワークショップにて発表を行ったことを報告した。さらに、ワークショップの内容については、学会誌第25巻第1号に委員会報告として掲載予定である旨を報告した。

また、保留となっていた健康危機管理システムについても、活用に向けて委員会で検討していく旨を報告した。

5. 活動推進エンジンチームについて（荒木田理事）資料11

8月10、30日に会議をWebにて開催した結果、①現会員を逃さない、②新規会員の獲得、③当事者や現場の方に魅力ある企画、の3点を活動目標として掲げ、検討していく旨を報告した。さらに、活動目標達成のための具体策について資料を基に説明し、関連する広報委員会・研究活動推進委員会・編集委員会でも検討のうえ、次回の理事会にて報告してもらうよう依頼した。

6. 次世代研究活動推進チームについて（田高理事）資料12

地域看護学の再定義（2019）の実装に役立つ研究課題とは何かを明らかにし、それに基づき地域看護学研究のロードマップ（案）を作成すること、ならびに、同ロードマップを活用して次世代の地域看護学を担う学会員の拡大および研究活動の活性化と推進を図る体制づくりを拡充することを目的に活動していく旨を報告した。

7. その他

1) 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会新役員決定について（宮崎理事）

世話人3名、監事2名を選出する役員選挙が行われ、田高副理事長が世話人として選出された旨を報告した。任期は2022年4月1日～2025年3月31日である。

2) 次回理事会の日程について（宮崎理事）

2022年2月上旬に次回理事会を開催することとした。